

## 金沢医科大学病院 内視鏡科

安全性を重視した診療体制が  
地域の高度救急医療を支える

「生命への畏怖」を医療活動の原点として  
安全で質の高い医療サービスを地域に提供

金沢医科大学病院は、「一般病院では困難な高度な医療の提供」、「医学進歩のための高度な医療技術の開発と評価」、「良医育成のための高度な医療に関する臨床研修」を行う北陸地方の基幹病院として昭和49年に開院しました。開院以来「患者さま中心の医療の実践」を目指し、最新の先進設備を充実させ、また地域との病診・病病連携の強化に務めています。併設の救急医療センターでは24時間体制で対応し、専任の医師のほかに各診療科で常時オンコール体制を敷くなど、「いつでも誰でも安心してかかれる病院」というモットーを実践しています。平成6年4月には、北陸地方で初めて特定機能病院の指定を受け、また平成19年1月には日本医療機能評価機構の病院機能評価(審査体制区分4 Ver.5.0)の認定を無条件で受けています。

検査の迅速性と安全性を両立させる  
徹底した安全管理を実施

平成15年9月、同院では金沢医科大学創立30周年記念事業の1つとして、病院新館を建設しました。また、同時に診療体制を一新し、内科と外科の壁をなくして臓器別診療体制を整え、患者さまが最適な治療を受けられるシステムを採用しました。そのため、現在同院の内視鏡センターは複数科の出張制で運営され、必要な検査をいつでも実施できるようになっています。内視鏡センターの運営に関与している内視鏡科の伊藤透先生は、「当院では平成8年に大学病院としては日本初となる



内視鏡科 准教授  
伊藤 透 先生

電子カルテシステム導入を実現しましたが、このシステムを用いることで当日の検査予約も可能となり、その場でインフォームド Consent を行って検査を施行できるようになっています。患者さまが不調を訴えているとき、また医師が必要だと判断したときに迅速に検査を行うことが、正確な診断をする上で大変重要です」と



〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1

病院長：高島 茂樹

スタッフ：医師33名 看護師8名(うち内視鏡技師2名) 事務員1名

内視鏡検査総数9930件(平成18年度)うち、上部内視鏡検査6723件、

下部内視鏡検査2770件、ERCP141件

スコープ本数：上部用29本、下部用11本

ご説明され、このようなフレキシビリティを高めた医療サービスが患者さまの満足度を上げるために重要であることを強調されました。

内視鏡科のもう一つの役割は、内視鏡センター全体の安全管理に対するアドバイスです。内視鏡センターは安全に30年使用できることをコンセプトに設計され、総面積は700㎡、将来全身麻酔も行えるよう笑気ガスの配管が施されています。また、医療従事者と患者さまの導線を完全に分けたレイアウトになっており、患者さまが落ち着いて検査を受けていただけるよう工夫されています。また、検査の迅速性と安全性を両立させるため、検査前に電子カルテ上に服用中の薬剤や基礎疾患、鎮静剤の希望等を必須で入力し、患者さまの情報を常に院内のどこでも共有できるようになっています。このようなハード面とソフト面の両面での安全管理の実施により、病院機能評価でも内視鏡センターは高評価を得ています。伊藤先生は、「安全管理に関しては、日本ではリスクマネジメントが主流ですが、リスク回避と同時に実際に何か起きたときにどう対応するのかを想定するクライシスマネジメントを徹底することが重要です。日頃からこの危機管理を徹底しておくことで、万が一事故が起ってしまった場合にも対応次第はその損害を最小限に止めることができると思います。今後はコメディカルへの教育等も含めて、事故を1件も起こさないための対策を内視鏡科主導で行っていきたい」と、更なる展望をお話いただきました。

